

平成24年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 「ものづくり」を通じた教育を念頭におき、全ての教育活動において以下のことを実践し、地域に信頼され、生徒が誇りをもって卒業する学校。
1. 生徒一人ひとりの総合的な人間力の充実が図られている。
 2. 自信を持ち、自ら変革を起こせる生徒、自ら新しいことにチャレンジする生徒が育っている。
 3. 専門分野の深化と高度な専門性を身につけるための高等教育機関への接続の2つの方向性を基本とした教育内容の充実が図られている。

2 中期的目標

1 確かな学力を育成する学校

- (1) 新学習指導要領を踏まえ、基礎的・基本的な学力の定着をめざす。
 - ア 公開授業や研究授業、授業アンケートを活用し授業改善に組織的に取り組む。
 - イ 少人数授業の展開や実習内容の充実を図り「わかる授業」「考える授業」を展開する。
 - *生徒向け学校教育自己診断の「授業はわかりやすい」(平成23年度34%)を毎年5%引き上げ、平成26年度に50%を達成する。
 - ウ コミュニケーション力の育成を図る。
 - *生徒向け学校教育自己診断の「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」(平成23年度15%)を毎年5%引き上げ、平成26年度に30%を達成する。
- (2) 各種検定合格や資格取得を積極的に指導する。

2 豊かな心をはぐくむ学校

- (1) 生徒との信頼関係を基本とした毅然とした生徒指導を行い、問題行動の防止や再履修生徒や転・退学生徒の減少に努める。
 - ア 挨拶指導・遅刻防止指導・携帯電話指導・校内美化指導・通学時のマナー指導を徹底する。
 - *平成26年度には遅刻生徒数90%減を目標とする。
 - *平成26年度には再履修生徒数、転・退学生徒数共に90%減を目標とする。
- (2) 人権教育を推進し、社会人に相応しい人格と態度を養う。
 - ア 発達段階に応じた人権教育と、学年別人権教育の充実を図る。
 - *生徒向け学校教育自己診断の「命や人権の大切さについて学ぶ機会がある」(平成23年度22%)を毎年5%引き上げ、平成26年度に40%を達成する。
- (3) 生徒の自己実現への支援に努める。
 - ア 教育相談体制の充実に向け、分掌・学年・系・教科の連携を深める。
 - イ キャリアガイダンスの充実を努める。
 - *生徒向け学校教育自己診断の「学校は、進路についての情報をよく知らせてくれる」(平成23年度52%)を毎年5%引き上げ、平成26年度に70%を達成する。

3 安全安心で魅力ある学校

- (1) 生徒活動を活性化させる。
 - ア 学校行事、学年行事などに積極的に生徒がかかわるよう支援する。
 - イ 部活動の活性化を組織的に支援する。
 - *部活動の参加率を毎年5%増加させ、平成26年度に65%以上にする。
- (2) 公開授業を実施するなどPTA活動や学校協議会等の一層の充実を図る。
 - *保護者向け学校教育自己診断の「学校は、保護者が授業を参観する機会をよく設けている」(平成23年度37%)を毎年5%引き上げ、平成26年度に50%を達成する。
 - *保護者向け学校教育自己診断の「学校では、PTA活動は活発である」(平成23年度68%)を毎年5%引き上げ、平成26年度に85%を達成する。
- (3) 生徒が活躍できるホタルプロジェクト、植物工場、屋上庭園、太陽光発電、風力発電の3年間の活用計画を再検討する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成25年1月実施分]	学校協議会からの意見
<ul style="list-style-type: none"> 学習指導面、生徒指導面においては学年進捗と共に全ての項目について良い傾向が増加し、「学校に行くのが楽しい」、「先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる」、「将来の進路や生き方について考える機会がある」が約85%となっている。しかしながら、「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」は約56%であり、今後、生徒の相談体制等の整備をしていく必要がある。 「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか、知らされている」では、約70%であり、本校の地理的な条件等を考えると地震、津波に対する備えを徹底する必要がある。 	<p>第2回(11月30日)(第1回新学校協議会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業アンケートの集計結果について <ul style="list-style-type: none"> ・ 数学や理科が不得意な生徒が多いのではないかと。実技の満足度が高い。 ・ 国語力が重要である。宿題を多くしても良いのではないかと。 ○ 文化祭について <ul style="list-style-type: none"> ・ ものづくりなど文化的な取り組みが増えてきた。 ○ 職場アンケートについて <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導・学習指導で困難を感じている教員数が、普通科と専門系で違っている。 ○ 最近、民間企業では厳しく指導する組織の長が少なくなり、安全第一の職場での事故がなくなる要因になっている。職場では、ぴりっとしたところがないとダメである。その意味で、工業高校の生徒には厳しく指導する先生が必要である。 <p>第3回(3月14日)(第2回新学校協議会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校教育自己診断、授業アンケートの集計結果について <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的には良いデータだと思う。 ・ 気軽に相談できる体制を充実する必要がある。 ・ 地域連携について一層協力したいので、学校の情報をできるだけ早く頂きたい。HP更新を生徒参加でやってみてはどうか。PTAの活動もHPにアップして欲しい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力を育成する学校	<p>(1) 基礎的・基本的な学力の定着</p> <p>ア 授業アンケート、公開授業や研究授業、教員研修の取り組み</p> <p>イ 少人数授業の展開や実習内容の充実を図り「わかる授業」「考える授業」を展開する。</p> <p>ウ コミュニケーション力の育成を図る。</p>	<p>ア・授業アンケート結果をもとにした授業の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTを用いた研究授業の実施 <p>イ・工業演習における少人数授業展開の実施</p> <p>ウ・課題研究における生徒発表実施</p>	<p>ア 2回の授業アンケートを通して授業満足度の向上を図る。</p> <p>研究授業実施</p> <p>生徒向け学校教育自己診断の「授業はわかりやすい」5%向上(平成23年度34%)</p> <p>ウ 生徒向け学校教育自己診断の「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」5%向上(平成23年度15%)</p>	<p>ア・少人数展開している英語や実技がある美術、家庭科、そして国語、社会の満足度が高く、数学や理科の満足度が低くなっている。今後、数学、理科の授業改善を図りたい。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2回のICTを用いた公開授業を実施し、研究成果を府教育センターで発表した。(◎) <p>イ・1年生の工業演習において少人数展開(習熟度別)を実施した。</p> <p>生徒向け学校教育自己診断の「学校に行くのが楽しい」の結果は3年生で約85%であった。(○)</p> <p>ウ・全ての系で生徒の課題研究発表会を実施した。今後は、後輩の前で発表する取り組みに発展させたい。(◎)</p> <p>生徒向け学校教育自己診断の「授業でわからないことについて、先生に質問しやすい」の結果は3年生で80%であった。(○)</p>
2 豊かな心をはぐくむ学校	<p>(1) 信頼関係を基本とした生徒指導の取り組み</p> <p>ア 挨拶指導・遅刻防止指導・校内美化指導・通学時のマナー指導を徹底する。</p> <p>イ 発達段階に応じた人権教育と、学年別人権教育の充実を図る。</p> <p>ウ キャリアガイダンスの充実に努める。</p>	<p>ア 遅刻防止指導の徹底 再履修生徒数を減らす指導の徹底 転・退学生徒数を減らす指導の徹底</p> <p>イ 人権推進委員会を核とした人権HRの計画(実施)</p> <p>ウ ボランティアを活用したキャリアガイダンスの実施</p>	<p>ア 遅刻生徒数50%減(平成23年度は40%減) 再履修生徒数50%減 転・退学生徒数50%減(平成23年度はほぼ変化なし)</p> <p>イ 生徒向け学校教育自己診断の「命や人権の大切さについて学ぶ機会がある」5%向上(平成23年度22%)</p> <p>ウ 生徒向け学校教育自己診断の「学校は、進路についての情報をよく知らせてくれる」5%向上(平成23年度52%)</p>	<p>ア・本年度の遅刻生徒数は前年比8%減であった。新たな取り組みで遅刻者の減少を図りたい。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 再履修生徒数は9%減、転・退学生徒数は11%減である。(△) <p>イ・人権推進委員会が安全安心事業に参画し人権意識の向上に努めた。しかしながら、人権ホームルームの実施には至っていない。今後も実施に向けて計画を推進していく。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断の「命や人権の大切さについて学ぶ機会がある」の結果は1年生約54%、2年生58%、3年生76%であった。(◎) <p>ウ・ボランティアを活用したキャリアガイダンスについて、講師は確保できたが実施できずに次年度回しとなってしまった。(△) 来年度は実施に向けて計画する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断の「学校は、進路についての情報をよく知らせてくれる」の結果は1,2年生65%、3年生84%であった。(◎)
3 安全安心で魅力ある学校	<p>(1) 生徒活動の活性化</p> <p>ア 学校行事、学年行事などに積極的に生徒がかかわるよう支援する。</p> <p>イ 部活動の活性化を組織的に支援する。</p> <p>(2) 公開授業を実施するなどPTA活動や学校協議会等の一層の充実を図る。</p> <p>(3) 各プロジェクトの再検討</p>	<p>ア 府産業教育フェア、西淀川ものづくりまつりなどに積極的に生徒がかかわるよう支援</p> <p>イ 部活動の加入率の向上を図る</p> <p>ウ 学校施設見学会以外に公開授業を実施</p> <p>エ 各プロジェクトの計画の再検討</p>	<p>ア 参加生徒数50%増</p> <p>イ 部活動の加入率55%(平成23年度49%)。</p> <p>ウ 保護者向け学校教育自己診断の「学校は、保護者が授業を参観する機会をよく設けている」5%向上(平成23年度37%)。</p> <p>保護者向け学校教育自己診断の「学校では、PTA活動は活発である」5%向上(平成23年度68%)</p> <p>エ 計画書の作成</p>	<p>ア・参加生徒は、昨年の1.5倍となった。(◎)</p> <p>今後も増やす方策を考えたい。</p> <p>イ・部活動の加入率は昨年とほぼ同じであるが、活動が活発になっているクラブが増加中である。バレーボール部(近畿大会出場、公立高校大会3位)、硬式野球部、軟式野球部、軽音楽部、NCS、演劇部他(◎)</p> <p>ウ・5月12日に公開授業を実施し、保護者、中学3年生、中学校教員に公開した。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断の「学校は、保護者が授業を参観する機会をよく設けている」の結果は50%であった。(◎) 学校教育自己診断の「学校では、PTA活動は活発である」の結果は80%であった。(◎) <p>エ・生徒が活躍できるホタルプロジェクト、植物工場、屋上庭園は計画通り実施できたが、太陽光発電、風力発電については次年度実施予定である。(△)</p>